コラム3

菊川市自治体沿革史

村名	1889年	1923年	1940年	1942年	1954年	1955年	1957年	2005年
中内田	中内田村			内田村	菊川町	菊川町		菊川市
月岡								
耳川								
下内田	下内田村							
東横地	横地村							
奈良野								
西横地								
土橋								
三沢								
半済	六郷村							
神尾								
牛淵								
小沢								
小出								
本所								
西方	西方村	堀之内町						
堀之内								
加茂	加茂村							
吉沢	河城村							
倉沢								
友田								
富田								
沢水加								
和田								
潮海寺								
河東	南山村				小笠町		小笠町（榧萩の一部は菊川町）	
高橋								
川上								
吉谷	川野村		小笠村					
丹野								
目木	相草村							
猿渡								
棚草								
赤土								
上平川	平田村							
下平川								
嶺田								
堂山								
堂山新田								
大石	中村（現勝川市，中村は1956年に城東村に編入）							

第２章
地区の特色

単風環頭大刀（大岡ヶ谷横穴群）

1 小笠エリア

小笠エリアのあらまし

小笠エリアは、菊川本流と支流牛渕川・丹野川流域の平野部と丘陵部で構成されています。

この地域には江戸時代から塩の道（秋葉街道）が通り、高橋原・奥磯部・川上・棚草・平川・菊川渡船場へと続いています。塩買坂や市場などに当時の面影が残り、沿道には各種の常夜燈が設置されています。

地域には多くの文化財や史跡を確認できますが、なかでも平川地区にある黒田家住宅は、旗本の代官としての佇まいや中世城館の名残を残し、国指定文化財となっています。虚空蔵山福蔵院で行われる市指定文化財の節分祭や、高橋地区にのこる焼き雛などの古くからの慣習が残っています。戦国大名であった今川氏と関係の深い正林寺には、市指定文化財である寿桂尼画像や今川義忠木像が大切に保管されています。また、嶺田用水・棚草用水は地域の農業発展を明らかにする上で見落とすことのできない施設といえます。

小笠エリアにゆかりの人物

本間 春城

写真1　本間春城家墓地【地図：P72】

初代本間春城清宣は朝比奈村（御前崎市）に生まれ、池新田（同市）の医師・本間清定に学び、1731年に家名を継ぎ、上平川村に開業しました。三代春城清行は1813年、小笠郡・榛原郡の同業者に、現在の医師会のような組織の必要性を呼びかけ「玄聖講」を結成、医師の技量向上と地域医療発展に尽力しました。

病院跡の背後にある本間春城家墓地には歴代春城の墓塔がならび、本間医院の往時を偲ぶことができます。

松下 幸作（1864 ～ 1934）

写真2　松下 幸作

松下幸作は、高橋村に生まれました。手揉全盛の時代に機械揉の実現をめざし、製茶機械の製作販売権を取得、1898年に松下工場を設立して、機械製茶時代の開幕に貢献しました。

また、城東馬車鉄道の開業創立発起人の1人となり、御前崎軌道・堀之内軌道では社長に就任し、地域発展に尽くしました。

橋本 孫一郎（1862 ～ 1937）

写真3　橋本 孫一郎

橋本孫一郎は、猿渡村に生まれました。高橋村の野賀岐山に学び、1891年に私学・双松学舎を設立しました。1960年の閉校までに5,000有余の農村青年を導き、二宮尊徳の報徳精神を厳格に守ることを基本とする人格教育・徳育教育を貫いたところが大きな特徴だったといえます。

現在、跡地には記念碑が建立されています。

舟久保古墳【地図：P66】

舟久保古墳の墳形は前方後円墳ですが、前方部はほとんど削られています。全長は約49 m・後円部直径約26 m・高さ約3.5 mです。後円部には幅約6 mの周溝が掘られていますが、墳丘に墳輪はみられません。埋葬施設は未調査で、出土遺物も知られていませんが、古墳時代中期の古墳と推定されます。市内では上平川大塚古墳の後に造られ、大徳寺古墳に次ぐ大きさです。

写真1　舟久保古墳

図1　墳丘図

八幡ヶ谷古墳【地図：P72】

八幡ヶ谷古墳は直径約22 mの円墳です。埋葬施設は2つあり、ともに木棺を直接埋めたものです。副葬品は、大刀・剣・槍・盾・斧・鎌・竪櫛・巴形銅器（盾の飾り）などが出土しました。築造された年代は、5世紀前半と考えられます。

周辺の丘陵には5世紀後葉の志味堂古墳や変形神獣鏡が出土した瑞泉寺1号墳があります。

写真2　八幡ヶ谷古墳

写真3　巴形銅器

写真4　瑞泉寺1号墳　副葬品（左：変形神獣鏡、右：鉄製品）

黒田家住宅【地図：P72】

黒田家住宅は、主屋と長屋門のほか多くの建造物が国指定文化財となっています。

黒田家は永禄年間にこの地に移り住んだとされており、広大な敷地にある濠は中世城館の遺構でもあります。江戸時代には、旗本・本多氏の代官として下平川村等を治めてきました。明治維新後も平田村長や小笠町長を務めた家柄です。

黒田家が所有する美術工芸品などは、黒田家代官屋敷資料館において展示されています。

写真1　資料館展示室

写真2　『驟雨之図』

朝日神社古墳【地図：P72】

朝日神社古墳は平野部に位置し、全長約20 mの前方部が短い帆立貝形の前方後円墳です。周溝は幅約4 mあり、墳輪や葺石は見られません。埋葬施設は木棺を直接埋めたものと推定されています。出土品には、須恵器と祭祀に用いられる鏡を模した石製の有孔円盤があります。

菊川流域には、4世紀の上平川大塚古墳、5世紀前半の舟久保古墳、5世紀後半の大徳寺古墳、6世紀前半の朝日神社古墳の4基の前方後円墳があります。これらの古墳は、菊川流域を治めた豪族の墓と考えられ、朝日神社古墳はその最後の古墳と言えます。

写真3　朝日神社古墳

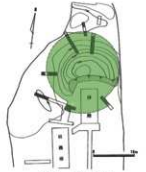


図1　墳丘図

2 菊川西部エリア

菊川西部エリアのあらまし

菊川西部エリアは、菊川本流と支流の西方川・上小笠川などの流域の平野部と丘陵部で構成されています。

地域には、江戸時代の主要道である川崎街道が、西方・堀之内・本所と東西に通じ、同じく塩の道が菊川渡船場（高田の渡し）から上小笠川に沿って北上し、上内田に通じていました。

東海道線堀之内駅周辺は、1889年の開業後に各地から来住した人々により市街地が形成されました。また、1899年開通の小鉄道（城東馬車鉄道・御前崎軌道・堀之内軌道）は、池新田に向けて貨客を運びました。

地域には、高田ヶ原古墳群、平尾八幡宮、高田大屋敷遺跡、大頭龍神社、旧旗本・井上氏陣屋跡、忘声教院山門、赤れんが倉庫など、歴史を体感できる文化財・史跡があふれています。

菊川西部エリアにゆかりの人物

栗田 土満（1737 ～ 1811）

写真1　栗田 土満

栗田土満は、平尾村に生まれました。1767年に賀茂真淵、1785年に本居宣長にも入門し、国学を深めました。1790年、平尾村に学舎・岡廼屋を開き、石川依平・栗田真菅・小国重年ら多くの門人を育てました。

土満の代表的な著作として、歌集『岡の屋歌集』や研究書『神代紀葦牙』『日本書紀』の解説書）などがあります。

関口 隆吉（1836 ～ 1889）

写真2　関口 隆吉

関口隆吉は、旧幕臣です。1870年、静岡藩の高官を辞職、開墾方頭取並として牧之原開拓に加わり、住居を月岡村の旧旗本・井上氏陣屋跡に定めました。1872年、新政府に仕官、三潴県権参事・山形県権令・山口県令・元老院議官・地方巡察使・静岡県令（県知事）などを歴任。静岡県知事時代には、治山治水事業など静岡県の基礎作りに尽力しました。

静岡浅間神社と加茂の洞月院境内に頌徳碑が建立されています。

落合 藤八（1889 ～ 1944）

写真3　落合 藤八

落合藤八は、六郷村に生まれました。20歳で上京、陸軍砲兵工廠に勤めました。1911年、東京工科学校予備科に入学し、鋳物に関する技術知識を習得しました。その後帰郷し、1916年に旭鋳物工場を起業、1938年には旭可鍛鉄株式会社を設立し、事業拡大をめざし、地域を代表する企業へと歩み始めました。

応声教院 【地図：P70】

応声教院は、855年の創建とされる浄土宗の寺院であり、本尊は阿弥陀如来です。浄土宗をひらいた法然と、師僧であり『扶桑略記』の選者である皇円ゆかりの寺院として知られています。御前崎市佐倉にある桜ヶ池の奥の院として、県内外から多くの信者が訪れています。

山門は静岡市の宝台院にあった門を、1918年に移築したものです。城門を思わせる大型の門であり、国指定文化財になっています。また、境内には“月葉の蓮”や“三度栗”など、「遠州七不思議」に関わるものや多くの文化財があります。

写真１　阿弥陀如来坐像

宮ノ西遺跡 【地図：P70】

宮ノ西遺跡では８世紀後葉から９世紀中葉にかけての、70棟を超える多くの掘立柱建物跡と６軒分の竪穴建物跡が発見されました。建物は棟方向をある程度揃えながら、数回の建替えが行われています。建物配置の計画性や出土遺物の特徴から、古代の地方役所（郡家）の周辺部、または豪族居宅の一角と推定されます。特筆されるのは、「都符木簡」と呼ばれる郡家からの命令を伝える文字資料が発見されたことです。正式な文書形態ではなく習書と考えられますが、この発見は城飼郡の郡家所在地を示す貴重な資料と言えます。

写真２　建物群

写真３　都符木簡

政所本屋敷遺跡 【地図：P70】

政所本屋敷遺跡は弥生時代から鎌倉時代に営まれた遺跡です。弥生時代中期から古墳時代前期にかけては、竪穴建物跡や方形周溝墓等が発見され、多くの土器が出土しました。

古代では、石製の巡方の出土が注目されます。巡方は帯の飾具で金属製と石製があり、石製の飾具を付けた帯を「石帯」と呼びます。これらの帯は古代の役人の衣服に伴うものです。この発見により、郡家を支える村がこの地区にもあり、郡家に出仕する有力な人物が住んでいた可能性があります。

政所本屋敷遺跡周辺には、木舟遺跡で軒丸瓦、御門前遺跡で人形・馬形土製品が出土するなど注目される遺跡が多く存在します。

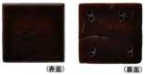


写真１　石帯

写真２　馬形土製品

高田ヶ原古墳群　大徳寺古墳 【地図：P68】

高田ヶ原１号墳からは、６世紀前半の円筒埴輪や朝顔形埴輪が出土しています。高田ヶ原２号墳の埋葬施設は組合式石棺であり、６世紀前半と考えられます。

大徳寺古墳は全長約63ｍの前方後円墳で、市内最大の古墳です。埋葬施設は木棺を粘土で覆う構造の粘土槨と考えられることから、築造は５世紀と推定されます。

また、鹿島古墳からは６世紀前半の人物埴輪と馬形埴輪を含む埴輪が出土しています。

写真３　高田ヶ原１号墳　埴輪

写真４　大徳寺古墳

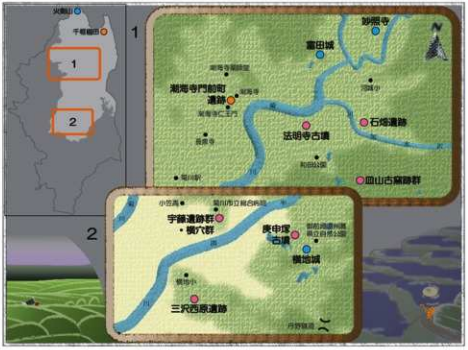
3 菊川東部エリア

菊川東部エリアのあらまし

菊川東部エリアは、市内最高峰の火剣山・牧之原台地から延びる丘陵と菊川流域の平野部で構成されています。「本所」や「半済」など中世に遡る地名が残り、棚田が現在も営まれることも特徴です。牧之原台地には明治維新の士族開墾に始まる日本一の茶園地帯が展開しています。

地域には、掛川市成滝で東海道より分岐した川崎街道が和田・沢水加を経て牧之原を越し川崎湊（牧之原市）へ通じていました。江戸時代には沿道の多くの村々がこの道で年貢米を川崎湊に運び、船積みして江戸に送っていました。また、奈良野・土橋・神尾を通り牧之原に上る道は横須賀金谷往還と呼ばれ、横須賀藩主が参勤交代で利用したといわれます。

地域内では市内最古の遺跡である三沢西原遺跡や、国指定文化財の横地氏城館跡があります。３年に１度行われる潮海寺祇園祭や潮海寺仁王門・仁王像は市指定文化財となっています。妙照寺に伝わる大般若経は南北朝時代の書物として、県指定文化財となっています。



菊川東部エリアにゆかりの人物

小田 信樹（1844 ～ 1910）

写真１　小田 信樹

小田信樹は、元静岡藩重臣です。1871 年の廃藩置県後、牧之原開墾方に合流し住居を東横地村旧旗本・本多氏陣屋跡に定めました。自宅で梨園義塾を開き、1873 年に横地校の開校に協力、初代校長に就任しました。1878 年から内務省などの官職に就きましたが、1894 年帰郷して郡議会議員などを務めました。1898 年からは北海道十勝原野の開墾に挑みました。

頌徳碑が横地小学校の校庭に建立されています。

丸尾 文六（1832 ～ 1896）

写真２　丸尾 文六

丸尾文六は、池新田村（御前崎市）に生まれました。1870 年、大井川渡船開始で失業した川越人足を率いて牧之原に入植、私財を投じて原野の開墾に尽力し、広大な茶園を開きました。その後、静岡県茶業組合取締所総括や静岡県製茶直輸出会社取締役などに就任しました。また、静岡県議会議員や衆議院議員としても活躍しています。

頌徳碑が静岡浅間神社と丸尾原水神宮の境内にあります。

山田 次郎蔵（1849 ～ 1908）

写真３　山田 次郎蔵

山田次郎蔵は、沢水加村に生まれました。1863 年、茶業の将来性に着目し、自宅裏山で茶園開墾を始めています。1879 年には製茶伝習所を創設し、手揉製茶技術の向上に努めました。また、熱源改良にも取り組み、佐倉炭の導入にも積極的でした。

掛川城御殿入口付近に頌徳碑があります。

常夜燈

菊川市内には 40 基を超える常夜燈が存在しています。

常夜燈は秋葉山に参詣する道中の安全を守っていました。また、村内に火事が起きないようにとの思いが込められています。

常夜燈は江戸時代後期から建立され、形や材質は時代とともに多くの種類があります。いずれも人々・地域の安全を願い、現在まで大事に守り継がれてきたものです。

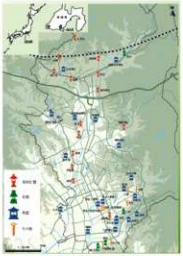


図１　菊川市内の常夜燈の分布

皿山古窯跡群 【地図：P69】

皿山古窯跡群は、平安時代末期～鎌倉時代の焼き物を焼いた窯です。構造は長さ７～10 mの半地下式のトンネル状の窯本体と灰原が確認されました。

平安時代末期、釉薬をかけた碗のほか瓦・仏具などを焼成しており、瓦は潮海寺で使用されるものでした。鎌倉時代には釉薬をかけない碗・小皿なども焼成していましたが、仏具などはありません。

皿山古窯跡群の製品は菊川流域や掛川市東部の集落跡から出土しており、流通圏は広いものではありません。しかし、独自の流通圏をもっていたことから、背後に古窯跡群の存続を支えた有力者がいたと推定されます。

写真１　皿山古窯跡群

写真２　経筒外容器

潮海寺 【地図：P68】

潮海寺は、中世では多くの寺坊がありましたが、戦国時代の戦禍で一時衰退します。江戸時代に多くの人々の寄付で再興、現在に到ります。仁王門・仁王像・祇園おはやしが市指定文化財です。

仁王門は八脚門寄棟造、門内に２軀の仁王像が安置されています。仁王門・仁王像ともに、江戸時代中期頃に建立・製作されたと考えられます。祇園祭は、３年に１度の７月 23 日に近い土・日曜日を含めた３日間開催されます。

写真１　潮海寺　仁王門

写真２　潮海寺　仁王像

宇藤遺跡群 【地図：P71】

現在の菊川市総合病院がある東横地の丘陵には、かつて集落遺跡と古墳群・横穴群がありました。

宇藤古墳群は、丘陵頂部にあった６世紀前半の小円墳群です。埋葬施設は木棺で、副葬品には大刀・鉄鏃・刀子などがあります。続く６世紀後半から７世紀前半にかけて、丘陵斜面には横穴墓が築かれました。この時期は横穴式石室をもつ円墳が一般的ですが、菊川市を含めた東遠江ではほぼ横穴墓で占められます。副葬品には土器・金環・勾玉・大刀・鉄鏃・刀子・馬具・鉄斧などがあり、石室をもつ古墳と変わりません。

宇藤遺跡からは、奈良時代から戦国時代の建物跡が発見されました。

写真３　宇藤横穴群

写真４　宇藤横穴群　副葬品

コラム4

菊川城館遺跡群【国指定文化財（史跡）】

菊川城館遺跡群は、横地氏城館跡と高田大屋敷遺跡から構成されます。

横地氏は13世紀以降、奥横地に館を構えていたことが発掘調査の結果から判明しました。また、菩提寺になったと思われる三光寺・永楽寺・慈眼寺が創建されており、寺院の位置関係から3箇所の館の存在が推定されています。とくに三光寺跡付近の殿ヶ谷遺跡では礎石建物が発掘され、横地氏の館跡と考えられています。

内田氏の館は、下内田にある高田大屋敷遺跡が推定地とされ、現在でも土塁に囲まれた屋敷地を見ることができます。遺跡に近接して秋葉街道（塩の道）が通過しており、交通の要衝地であったことが分かります。

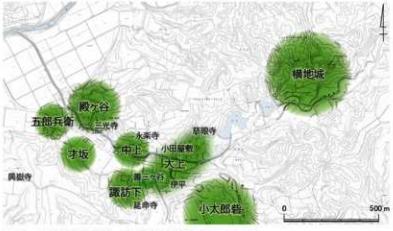


図1　横地氏城館跡　主要施設配置図【地図：P71】
横地の谷には北側の山麓に館や寺院、南側の山麓には一族の屋敷や鉄製品製作の工房が広がっていました。
北側には横地城・南側には小太郎岩が築かれ、谷を守っていました。

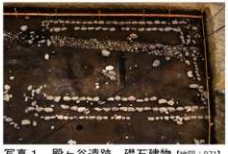


写真1　殿ヶ谷遺跡　礎石建物【地図：P71】

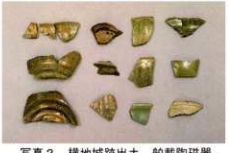


写真2　横地城跡出土　舶載陶磁器

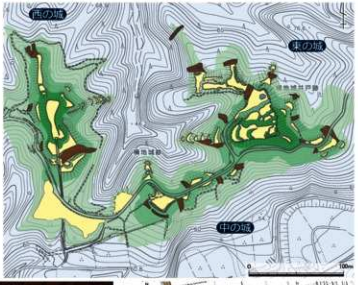


図1　横地城
【地図：P71】
横地城には現在でも曲輪・堀切・土塁などの遺構が残っています。

写真1　伝横地太郎塔石塔群
【地図：P71】

写真2　三光寺跡裏墓地石塔群
【地図：P71】

図2　高田大屋敷遺跡【地図：P72】
土塁に囲まれた屋敷であり、発掘調査から江戸時代～現代まで継続的に屋敷地であったことが分かりました。